

二〇二六年度

入学試験問題

(二月一日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙六ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

方角の定義にしても、「山」を巡る様々な解釈にしても、何となく了解された概念をもとに理解されているに過ぎません。ですから、こうしたことばを使って文章を書けば、書き手と読み手の間で、当然のように解釈のズレが生じます。

日本地形学連合という学会があります。連合という名にしているのは、地形学、地質学、年代学、地球科学、河川工学、土壌学、海洋・海岸工学、火山学、土木工学、自然環境・災害学、惑星科学など、地形に携わるさまざまな分野で構成されているからです。その学会が2017年に『地形の辞典』（朝倉書店）を出版しました。その発表の会合で辞書について講演をしたときに、『地形の辞典』をつくるきっかけが、各分野で使われている地形学の用語の解釈に①齟齬があつたからだという話を聞きました。そのため、各分野で使われている用語の解釈を統一するのではなく、網羅して違いも含め分野の異なる研究者の理解を深めるのが目的だったと言います。

②専門が異なると用語の解釈も変わってくるのです。ことばは、固定された一つの解釈や概念のうえに成り立っているものではないのです。

そしていまは、インターネットで結ばれる社会です。SNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）の普及は、それまでの文章としてのメールとは異なる機能を生みました。それがチャットです。チャットは「おしゃべり」という意味で、短いことばでのやり取り

です。

これより以前に、女子高校生（JK）が中心になって、そのコミュニケーションだけで通用するJK語が生まれ、一つの若者文化として定着していました。それは短縮や感覚的表現が特徴のことばです。これがチャットとの相性がよかったのか、SNSの普及で一気に拡散するようになり、JK以外の人たちもいま風のことばとして使うようになってきました。それは次第に、話しことば以上書きことば未満の「チャットことば」とも言える新しいことばの概念を生み出しました。

（あ）、コロナ禍でのオンラインコミュニケーションは、手軽に話ができるチャットツールが中心になりました。SNSを中心に使われていたチャットが、企業内のやり取りに使われるようになりました。おしゃべりの道具が仕事に使われるようになったのです。会社でも「チャットことば」という新しい形でのコミュニケーションがつけられました。ここで使われることばは、マーケティング用語をカタカナ語で交ぜたものが多く、日本語としての意味が未消化なまま量産され、そのグループや組織、同業の仲間の中で流通しています。

そのため、ことばはあふれる一方で、グループ、組織内の仲間内のことばとして内向きの（Ⅰ）コミュニケーションの道具となっています。仲間内だけで通用することばは、組織や仲間以外の（Ⅱ）コミュニケーションの中では流通しにくくなり、結果としてことばがどんどん収縮しているのです。

2024年11月に亡くなった詩人の谷川俊太郎^{しゅんたろう}は生前、昨今のことばについて「量は増えているが、質が薄^{うす}つぺらになっている」という趣旨^{しゆし}のことを話していました。

一方で「言語化」ということが、盛んに言われるようになっていきます。これもまた、曖昧^{あいまい}なことばです。

ア 「あなたの存在を表すことば」になっていないのです。

イ 「あなたは何者ですか」と問われたときに、「私は〇〇会社で営業部長をしている者です」という答えは、言語を使つて説明しています。

ウ なぜなら、それは単なる社会的なポジションを伝えているだけだからです。

エ しかしこれを「言語化」だと言う人はいないはずです。

さらに、ChatGPTなどの生成AIが人に代わつてものを書く時代に入りました。この先、生成AIはますます進化していきま^いす。ものを書くという行為^いが人から奪^{うば}われていくかもしれません。（い）、生成AIが書くものは「文章」ではありません。文章は「書き手の思考や感情がほぼ表現し尽くされたもの」(大辞林・ウェブ版)を言います。生成AIが、あなたの思考や感情を表現することはできないからです。それを抜きにして「あなたの存在を表すことば」を紡^{つむ}ぐことはできません。生成AIがあなた個人の思考や感情に立ち入ることはできないのです。

生成AIが書けるものは、すでにネット上にある情報のまとめや、確定したデータを読み込んで整える「文書」です。実態があるものを読み込んで整えることについて、卓越^{たくえつ}した能力を発揮する道具なのです。今後、生成AIがどういう進化を遂^とげるのかはわかりません。しかし、いまの段階では③「文章」は人にしか書けないのです。

ここまで見てきたように、ことばは、とても曖昧であると同時に、その時代の影響^{えいきやう}を大きく受けます。日本語は感覚的で曖昧な言語だということもできます。一方で、感覚に訴^{うった}えることができるオノマトペや④比喩^{ひよ}表現が豊かな言語でもあります。

現代は、テクノロジーの発達によって、ことばを取り巻^{きま}く状況はとても複雑に「進化」しています。僕たちは、ことばの曖昧さを理解したうえで、ことばを使つて表現しなくてはなりません。ことばが収縮すると、表現力のみならず文化が衰弱^{すいじく}していきます。文章が書けないのは、文章の書き方とその意義を学んでいないからです。

子どものころ、ケーキ屋さんのショーケースにあったイチゴのショートケーキが、とても大きく魅力的^みに思えたはずです。それはケーキの入ったショーケースを下から眺^{なが}めていたからかもしれません。ショートケーキは手の届かない山の上にあったのです。大人になるにつれて同じケーキが平凡^{へん}に見えるのは、背も高くなり、経験を積み知識も得て、味も形もわかつているつもりになって、子どもの頃の視点を忘れてしまっているからです。

大人になっても、手の届かない山の上に宝物があるはずなのに、それを経験や知識でわかったような気になってしまします。それは、

感性の摩滅^{まめつ}につながり、無感動と無関心を醸成^{じょうせい}してしまいます。それでは言語能力も表現力も育ちません。曖昧であること、もやもやしていることを楽しんで、山の上に何かあるのかを探し続けることが、文章を書く重要な役割だと考えます。

とはいえ、曖昧であること、もやもやしていることを楽しむというのは、そう簡単ではありません。曖昧、もやもやをそのまま文章にしても、読み手には伝わらないからです。そこで、僕たちは「論理的な文章」を目指します。ところが論理的であろうとすると、小難しい言い回しや⑤収まりのいい文章にしてしまいがちです。小難しい言い回しは総じて、概念的で抽象度^{ちゆうさうど}の高いことばです。もともと曖昧なことばは、より現実味が薄くなり、書き手と読み手の距離^{きょり}を広げてしまいます。

収まりはいいけれど総じて概念的で内容の薄い文章であれば、生成A Iの「文書」が代わりを果たしてくれます。多少粗^{あら}くても、読み手が理解し共感できる「文章」を書くべきだ、というのが持論です。筆者の熱い思いで書かれた文章に押されて、気がついた時には読み手は違う地平にたどり着いていた、という驚きのある文章が書けるようになりたい、というのが僕の願いでもあります。

(前田安正『A Iに書けない文章を書く』より)

問一

——線部①「齟齬」とありますが、ほぼ同じ意味で用いられている語をこれより前の文章から二字で抜き出して答えなさい。

問二

——線部②「専門が異なると用語の解釈も変わってくるのです」とありますが、それはなぜですか。「くから。」に続くように、これより前の文章から抜き出して答えなさい。

問三

本文中の(あ)・(い)に入る言葉を、それぞれ次のア～エから選び、記号で答えなさい。

(あ) 【アだから イつまり ウしかし エさらに】
(い) 【アところが イ一方で ウそれゆえ エよって】

問四

本文中の(Ⅰ)・(Ⅱ)に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア	Ⅰ 大きな	Ⅱ 小さな
イ	Ⅰ 閉じた	Ⅱ 開かれた
ウ	Ⅰ くずれた	Ⅱ ととのった
エ	Ⅰ 弱い	Ⅱ 強い

問五 の中の文ア～エを正しい順序に並びかえて、記号で答えなさい。

問六 — 線部③「『文章』は人にしか書けないのです」とありますが、それはなぜですか。三十字以内で書いて答えなさい。

問七 — 線部④「比喻表現」とありますが、「子どものころ、」から始まる段落から比喻表現を五字以上十字以内で抜き出しなさい。

問八 — 線部⑤「収まりのいい文章」とありますが、「収まりのいい」という言葉が本文中の意味と同じように使われているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この服は派手すぎて私には収まりのいい色だ。
- イ このクラスは給食費の収まりのいいクラスだ。
- ウ このジュースは収まりのいい甘さが魅力の商品だ。
- エ 彼女の提案はみんなが納得できる収まりのいい案だ。

問九 筆者は「文書」と「文章」の違いをどのように述べていますか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「文書」は抽象度が高く内容の濃いものであり、「文章」は現実的で内容が薄いものである。

イ 「文書」は内容が薄く、情報をまとめたものであり、「文章」は筆者の思いや感情が伝わるものである。

ウ 「文書」は筆者が感情に流されて書いたものであり、「文章」は論理的に整理されたものである。

エ 「文書」は時代の影響を受けたものであり、「文章」は曖昧さやもやもやを楽しむためのものである。

問十 あなたは「文章」を書くことの大切さについてどのように考えますか。自身の体験を交えて二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

キシヨウチヨウデハアツサシスウヤコウスイヨソク
ヲリアルタイムデハイシンシテイマスガダイサイガ
イニソナエルタメニハヨリコウドナカンソクギジュ
ツガヒツヨウダソウデス。キンネントクテイノチ
イキニシユウチュウテキナオオアメヲモタラスセン
ジヨウコウスイタイハヨソクガムズカシクフウソク
ヤタイキノスイジヨウキリヨウヲタダシクケイサン
シテイクギジュツガモトメラレテイマス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 家路につく。
- (2) 野菜を行商する。
- (3) 鋼のような体つき。
- (4) 運を天に任せる。
- (5) 旅費を工面する。
- (6) 病状がカイホウに向かう。
- (7) 神は世界をソウゾウした。
- (8) 病後はアンセイが必要だ。
- (9) 印刷物をコウセイする。
- (10) 人間の欲にはサイゲンがない。

四

三字の熟語が完成するように、次の(1)～(5)の()にあてはまるものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| () | () | () | () | () |
| 解決 | 関心 | 用意 | 発達 | 売品 |

ア 非
イ 不
ウ 未
エ 無

[illegible]

